

作業部会【おおむね1歳3ヶ月～2歳未満】

萬代 芳子（福岡保育園 主任 / 松本 亨枝園長代理）

中江 圭子（鶴山幼稚園 主任）



福嶋 直美（一宮保育所 副主任）

藤本 真澄（二宮保育園 保育士）

前田 敦子（やよい保育園 保育士）

おもな発達の特徴 おおむね1歳3ヶ月～2歳未満

理念	保育内容（5領域）		おもな発達の特徴
健康な心と体	健康	身体・運動機能	<ul style="list-style-type: none"> ○歩けるようになり、探索活動が活発になる。 ○体のバランスのととり方が上手になる。（しゃがむ、ぶら下がる、跳ぶなど） ○積む、つまむ、転がす、はがすなど手や指を使って遊ぶ。 <p style="text-align: center;">探索活動</p>
		基本的生活習慣	<ul style="list-style-type: none"> ○離乳が完了し、幼児食を食べる。 ○スプーンやフォークを使って食べる。 ○食べ物の好き嫌いが出てくる。 ○身振りや簡単な言葉で排泄を知らせる。 ○ズボンや紙パンツを自分で脱ぐ。 ○手洗い、鼻かみなど自分でしようとする。
自信と信頼	人間関係	人とかかわる力 自立心 協同 規範意識など	<ul style="list-style-type: none"> ○保育者や友達のすることに関心をもち、真似をする。 ○大人の反応を感じながら、よいこと悪いことに気づく。 ○一人遊びをする。
		環境	<ul style="list-style-type: none"> ○好奇心 探究心 生活に取り入れる力など ○水、土、砂などの感触を楽しむ。 ○自分の物と友達のものとの区別がつきにくい。
豊かな情操と賢さ	言葉	話す力 聞く力 言葉で表現する力 など	<ul style="list-style-type: none"> ○指差し、身振り、片言、二語文で思いを伝える。 ○興味のある絵本を読んでもらい、言葉を繰り返し言おうとする。 <p style="text-align: center;">一語文から二語文へ 語尾を真似た片言</p>
		表現	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな感性や表現力 想像力 描く 作る リズム など ○いろいろな材料で感覚遊びをする。 ○腕を左右、上下、丸く動かしてなぐり描きをする。 ○リズムに合わせて、体を動かして遊ぶ。 <p style="text-align: right;">ぐるぐるかくの おもしろい</p>



探索活動

一語文から二語文へ
語尾を真似た片言

ぐるぐるかくの
おもしろい

おおむね2歳未満 1歳3ヶ月～1歳5ヶ月

発達 の 主 な 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・スプーンやフォークなどに興味をもち、持とうとするが、手づかみになる。こぼしながら自分で食べようとする。 ・排泄は「ちー」と言って知らせることもあるが、まだ、ほとんどの子どもがおしめである。周りの子どもがトイレに行く様子を見て、自分も行ってみたい、おしめに出ないタイミングで保育者に促されると、行ってみようとする。 ・ほとんどの子どもは一人で立ち上がり、歩けるようになる。歩行の発達に伴い、探索活動が活発になる。何でも触りたがり、つまんだり、落としたり、引き出しを開けたりして遊ぶことを楽しむ。散歩の途中で草や石や風に触れ、溝などに落ちてみたりする。狭い所に潜りこんで遊ぶ。 ・友達していることをニコニコ見ている子どももいる。友達を指さし、友達の名前がわかる。身振りや片言で表わそうとし、保育者に応答してもらうことを喜び、欲しい物や知っている物を指さして「ワンワン」「あっち」などの一語文の使用が始まる。身近な動物や果物、身の回りのものなどの絵本やペープサートを喜び繰り返して見る。 ・保育者に見守られ、目の前におもちゃで遊び、探索活動をしながら一人遊びを楽しむ。なんとなくゴロンとしたくなることがある。他の子どもが保育者に甘えている様子を見ると独占しようとし、他の子どもを押しつけて抱かれようとする。満たされると安心する。しかし、思うようにならないと泣いたり怒ったりする。 	
(教育・養育)	<ul style="list-style-type: none"> ・応答してもらう喜びを味わい、自らの思いをしぐさや片言で伝える。 ・「自分で。」という気持ちの表れに丁寧に応えていきながら、食事や排泄などの身の回りのことを自分なりにしようとする気持ちが満たされるようにする。 ・ゆったりとした家庭的な雰囲気や欲求が十分に満たされるようにする。 ・身の回りにあるものへの関心や好奇心を大切に受け止めながら、探究心が十分満たされるようにする。 	
経験 させ たい 内容	健康 な 心 と 体	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で、手づかみやスプーンやフォークをもって意欲的に食べようとする。 ・おしめ交換をしてもらい気持ちよさを感じるとともに無理なく便器に慣れる。 ・徐々に1回寝のリズムになる。 ・保育者に手や顔を拭いてもらい気持ちよさを感じる。自分でも手や顔を拭こうとする。 ・衣服の脱ぎ着の時、保育者に手伝ってもらいながら、自ら手足を動かそうとする。 ・歩いて探索活動を楽しむ。
	人間 関 係	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、安心していろいろな活動を楽しむ。 ・保育者に抱っこして、膝にのせてもらいスキンシップを楽しむ。 ・保育者や周りの子どもがしていることを見たりまねたりして、自分もしようとする。
	環 境	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花などの身の回りの自然物を見たり触れたりする。 ・水や砂に触れて、感触を楽しむ。 ・探索活動の中で様々な物を見たり触れたり、試したりしてかかわろうとする。
	命 と 自 然	<ul style="list-style-type: none"> ・知っているものや関心のあるもの、見つけたものを指さして知らせたり、片言で話したりする。 ・自分のしたいことやしてほしいことを指さしたり、片言で伝えようとしたりする。 ・「だめ」「危ない」がわかり、「だめ」「いや」を言う。 ・尋ねると動作で目・耳・口がわかる。 ・絵本を読んでもらうことを楽しみ、知っているものや興味あるものの名前を言おうとする。
	豊 か な 情 操 と	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な手遊びをしたり、歌に合わせてリズムをとり、喜んで身体を動かす。 ・好きな場所に行ったり、段を登ったりくぐったりして、全身を使った遊びを楽しみ体を動かす喜びを味わう。 ・タンポポやクレヨンでトントンしながら、色がつく面白さを味わう。
環 境 構 成 と 援 助	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から食べようとする意欲を大切に、一人一人の量や食べ方に合わせて介助していく。 ・食事の椅子は足が床に着くように固定され、姿勢が安定しやすいように高さを調節する。 ・一日3回食になるが、摂食できにくい栄養分はおやつで補うようにする。 ・排泄時のタイミングをみて誘いながら、一人一人の思いを汲み取り、無理強いをせずオマルやトイレに慣れていけるようにする。 ・一人一人の子どもの生活リズムを大切にしながら、安心して午睡や適切な休息ができるようにする。 ・ゴロンと寝転がっている子どもの気持ちを汲み取り、寄り添う。 ・散歩は少人数で出かけることで、探索がしやすく自然現象や事物に触れやすいようにする。 ・歩くこと自体が遊びなので、歩き回りながら遊べるように室内を広く見守ったりする。 ・行動範囲が広がるので、「探索活動」と呼ばれる「いたずら」ができる環境（つまんだり、引っ張ったりするおもちゃや降りたり上ったりする遊びができるような遊具）を選んだり作ったりする。 ・狭い所や潜り込める所が好きなので、環境を工夫し落ち着ける空間を大切に作る。 ・いろいろな場所に興味を示し歩こうとするので、転倒や誤飲などに留意する。 ・振り向いたときに保育者がいてくれると感じられるように見守り、一人一人の動きや思いを受けとめて応答していく。 ・戸外に出て、安全な環境の中で自然に触れることができるようにする。 ・安心できる保育室の環境を整え、遊具などは十分数を用意し、一人一人が満足できるようにする。 ・一語文には二語文で応答したり、わかりやすい具体的な言葉に置き換えて言葉をかけるようにする。 ・自我の芽生えから自立に向かう時期なので、一人一人の育ちをしっかりと受け止め理解して対応する。 ・落ち着いた雰囲気の中で絵本を読んだり、子どものしぐさや片言を受けとめ、言葉を添えながら丁寧にかかわるようにする。 ・子どもの好きな手遊びや歌を繰り返し歌い、リズムや言葉、身振りを楽しむことができるようにする。 ・連絡ノートや送迎の時間を利用して、園での様子を伝え安心感をもってもらう。 	
家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	<ul style="list-style-type: none"> ・子育ての喜びや悩み等に共感しながら信頼関係を築いていく。 ・友達と同じことがしたくなり、物の取り合いやトラブルも見られ出すので、そのことも成長の段階であることを伝える。また、ゆったりとした生活ができるよう配慮していることをたよりなどで知らせていく。 ・家庭や保育所の様子を伝え合いながら、食事・睡眠・排泄・遊びなどの生活リズムを整えることが心身共に安定した生活に繋がることを理解し合う。 ・散歩や行事などを通して地域の方とふれ合いをもつことができるようにする。 	

*片言期に入り、発声しやすい音声と他人の言葉とを対応させて、一語文を使っていくようになる。擬音語（ワンワン）、擬態語（ユラユラ）等の言葉が多くなることを理解し対応する。

おおむね 2 歳未満 1歳6ヶ月～1歳8ヶ月

発達 の 主 な 特 徴	<ul style="list-style-type: none"> ・食事は手づかみになることもあるが、こぼしながらも自分でスプーンやフォークを上から握り、食べられるようになる。 ・食べ物の好き嫌いが出てきて、口から出したり首を振るなどして嫌がる。 ・保育者に促されてトイレに行き、タイミングが合えば便器に排尿する。排尿した後、しぐさや簡単な言葉で出たことを知らせることもある。 ・一定時間安定して眠れるようになり、1回の昼寝になる。 ・手洗いは蛇口をひねって出そうとしたり、手をこすり合わせて洗おうとするが袖口が濡れてしまう。 ・着脱は保育者にしてもらい子ども、上手にできないものの自分でやってみたい気持ちをもせ、簡単なズボンや紙パンツを脱ごうとする子どもがいる。 ・歩行が安定し探索活動が活発になり、保育者に追いかけられることを楽しむ。 ・ごっこ遊びがジャンプのまねをしたり、斜面を登ったりする。 ・保育者への愛着が深まり、保育者に甘えてスキンシップを求めて膝に座り、安心して遊ぶことができる。 ・自分で試したいやってみようという気持ちをもせ、「自分で」と言い、十分にできないが自分でできた。 ・保育者に見守られながら一人遊びを楽しんだり、友だちのしていることに興味を持ち、同じことをして遊ぼうとする。 ・自分の物と友だちの物の区別がまだつかないため、思い込みによるトラブルが頻繁に起きる。 ・遊びは興味や好奇心が広がり、いろいろなものに興味をもつため、部屋中散らかして遊ぶ。 ・見た手遊びや日常生活を再現する遊びが始まる。 ・積んだり、転がしたりはがしたりして遊ぶ。 ・保育者と簡単な言葉のやりとりができるようになり、身振りや片言で意思を表そうとする。 ・くり返しのある絵本や言葉のくり返しなどに興味を示す。 ・気に入った絵本を眺んでもらったり一人で見たりする。 ・一語文が盛んになり、「～た」など語尾だけ真似た片言を話す。 ・好きな音楽が流れると、手を叩いたり体を揺らしたりして喜んだり、保育者の動きをまねたりする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・生活や遊びの中で、知っている言葉を使って、思いを伝えようとする。 ・「自分で」という気持ちが強くなるので、丁寧に応えていながら、食事や排泄などの身のまわりのことを自分なりにしようとする気持ちが満たされるようになる。 ・ゆったりとした家庭的な雰囲気や関心を大切に、一人一人の甘えや欲求が十分に満たされるようにする。 ・身の回りにある物への関心や好奇心を大切に受けとめながら、探究心が十分満たされるようにする。 	
経験 させ たい 内 容	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい雰囲気の中で、時には手づかみになることもあるが、スプーンやフォークを使って食べる。 ・おしめやおまるに排泄したあと、しぐさや言葉で知らせたり、便器での排泄を試みる。 ・促されて布団に入り、一定時間睡眠や休息をとる。 ・自分で顔や手を拭こうとし気持ちよさを感じる。 ・ズボンや靴下など簡単な衣服を脱いだり、時にははいてみようとする。 ・盛んに歩いて探索活動を楽しみ、登ったり、くぐったり、すべったり、押したりして全身を使って遊ぶ。 ・積む、つまむ、転がす、はがすなど手や指を使って遊ぶ。 ・「自分で」という気持ちを受け止めてもらいながら、自分でやってみようとする。
	人間関係	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られて安心して好きな遊びを楽しんだり、かかわってもらいたいことを喜ぶ。 ・友だちや保育者のしている事に興味を持ち、真似したり一緒にやってみようとする。 ・まわりの大人の反応を感じながら、良い事と悪い事があることに気づく。
	環境	<ul style="list-style-type: none"> ・探索活動の中で様々な物を見たり触れたり、試したりしてかかわろうとする。 ・園庭のいろいろな場所を探索して、気に入った場所で遊ぶ。 ・散歩や戸外遊びを通して虫や草花など自然に親しむ。 ・水、砂などの自然物に触れて感覚を楽しむ。 ・食べ物の絵本や栽培している野菜を見たり触れて楽しむ。
	命と自然	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいことやして欲しいことを指さし、片言や身振りで知らせようとする。 ・名前を呼ばれて返事をしたり、保育者の言葉をまねて言おうとする。 ・保育者にくり返しのある絵本を何度も眺んでもらう中で、簡単な言葉のくり返しや模倣遊びを楽しむ。 ・意に添わないと首を振ったりして意思表示をする。
	健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な手遊びをしたり、歌に合わせてリズムをとり喜んで体を動かしたりする。 ・いろいろな素材を使って感覚遊びを楽しむ。(フィンガーペイント、小麦粉・片栗粉・米粉粘土、スライム、砂、土など) ・腕を横や上下に動かしたりして、なぐり描きをする。
	環境構成と援助	<ul style="list-style-type: none"> ・自分から食べようとする意欲を大切に、苦手なものでもてくれるので、一人一人の量や食べ方に合わせて介助していく。 ・膀胱に尿がたまった感覚が持て意思表示ができる個々の時期に添って誘いかけ、排泄が成功したときには次の意欲へと繋ぐようにする。 ・一人一人の子どもの生活リズムを大切にしながら、安心して午睡や休息ができるようにする。 ・生活習慣は自分でしようとするのを励まして、うまくできたときはほめるなどして、自分でしようとする気持ちを大切に育てる。 ・保育者の予期せぬ危険が待っている可能性があるため、事故が発生することが無いよう十分注意する。 ・歩いたり、走ったり、体を動かすことが楽しめるよう、保育者も一緒に遊ぶようにする。 ・くぐったり、登ったり、すべったり、転がしたり、全身を使う道具や、つまんだり、入れたり、はがしたりする手先を使うおもちゃや素材を用意する。 ・安心できる保育室の環境を整え、道具などは十分数を用意し、一人一人が満足できるようにする。 ・自我の芽生えから自立に向かう時期なので、一人一人の育ちをしっかりと受け止め理解して対応する。 ・一人一人の気持ちを十分受け止め、保育者との信頼関係を築いていく。 ・自己主張のない子には注目しておき、生活や遊びの場面を通して意が出せるようにしていく。 ・友だちに興味や関心をもちだしたことを認めながら、道具の取り合いの時などは、言語化できない気持ちを受け止め言葉にして返したり、子どもと子どもを繋ぐような仲立ちを繰り返したりする。 ・保育者は子どもをよく見守り、できごとに対して表情や言葉でわかりやすく良い事悪い事を伝えていく。 ・安全面に配慮しながら遊びの中で可塑性のある素材や物を用意し、身近な物に興味をもったり、感覚を楽しめるようにする。 ・一語文から二語文への移行期や語尾を真似た片言時期なので、子どもの言葉に含まれている気持ちを丁寧にくみ取り言葉に置き換えていく。 ・繰り返しの言葉がある話や絵本を何度も楽しみなが、子どもが繰り返す言葉を一緒に言ったりする。 ・保育者は生活や遊びの中で子どもの好きな手遊びや歌を繰り返し歌い、リズムや言葉、身振りを楽しむことができるようにする。 ・一人一人の発達過程や生活の姿に個人差が大きい時期であることを十分に理解しておく。
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡ノートや送迎の時間を利用して、園での様子を伝え、安心感をもってもらう。 ・子育ての喜びや悩み等に共感しながら信頼関係を築いていく。 ・友達と同じことがたくなり、物の取り合いやトラブルも見られ出すので、そのことも成長の段階であることを伝える。また、ゆったりとした生活ができるよう配慮していることをたよりなどで知らせる。 ・家庭、保育所の様子を伝え合いながら、食事、睡眠、排泄、遊びなどの生活リズムを整えることが心身共に安定した生活に繋がることを理解し合う。 ・散歩や行事などを通して地域の方とふれ合いをもつことができるようにする。 ・自分でやりたがることは成長の印であることを伝え、気持ちを受け止め、時には待つことの大切さを知ってもらう。 ・友だちへの関心が芽生えることにより、トラブルが起きやすいため、トラブルが起きた時にはその原因や状況を伝えて理解してもらおう。 	

おおむね 2 歳未満 1歳9ヶ月～1歳11ヶ月

<p>発達 の 主 な 特 徴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・食事はスプーンを上から握ったり、促されて下から握って食べるようになる。 ・友達と一緒に楽しく食事ができだし、好き嫌いがはっきり出てくるが、苦手なものでも促されて食べようとする。 ・保育者に促されて、トイレに行き、排泄する。出たことを知らせることが増えてくる。 ・午睡のリズムが安定する。 ・鼻汁が出ると、「ティッシュ」と言って、出たことを伝える。 ・手洗いや鼻かみなど、保育者や他の子どもをしているのを見て繰り返ししようとする。 ・保育者の援助を受けながら、自分で顔を拭いたり、手を洗ったりする。 ・自分でパンツやズボンを上げたり、簡単な着脱を保育者と一緒にしようとする。 ・身の回りのことを自分でやってみようとする気持ちが強くなり、保育者の援助を「いや」と拒んだりする。 ・身支度や生活の流れが少しずつわかってきて戸外へ出ると、帽子をかぶったり、靴を履こうとする。 ・体のバランスの取り方が上手になり、しゃがんだり、ぶら下がろうとしたり、ジャンプしようとする。 ・自分でしたい時期に入るが、まだしてもらいたい姿を見せたり、自分でしようとしてもできないためイライラの姿を見せたりする。 ・同じものではなく、特定した物や、特定の友達の持っている物をほしがり、玩具の取り合いをして、相手をかんだりたいたりする子どもがいる。 ・物の何かに見立てて渡したり、人形を”とんとん”してあやす仕草など見立て遊びをする。 ・戸外に出たときに見つけた小石や葉っぱ、虫などに興味をもち、しゃがんでじっと見たり触れたりする。 ・保育者や友達の名前が言えたり身近な物の名前を言う。 ・「これは何?」「ワンワン」など、簡単な質問に答えることができる。 ・貼ったりはがしたりして遊んだり、線のなぐり描きに加え、ぐるぐる回して丸く描くことも始まる。 ・簡単な歌やリズムに合わせて体をゆすったり動作を真似て楽しむ。 ・繰り返しのある絵本やお気に入りの絵本、ペープサートなどを喜んで見る。 								
<p>(教育・養育)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探索活動をする中で、身の回りのことにも興味をもちながら、一人遊びを十分楽しむ。 ・保育者や友達とのやりとりを通して、いろいろな言葉を獲得し、使うことを楽しむ。 ・安心できる保育者が見守る中で、周りの大人や友達に関心をもちかわって遊ぼうとする。 ・ゆったりとした家庭的な雰囲気大切に、一人一人の欲求が十分満たされるようにする。 ・「自分で」という気持ちや介助してもらいたいという気持ちを受け止め、少しずつ自分でできることへの喜びがもてるようにする。 								
<p>経験させたい内容</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="248 817 311 985">健康な心と体</td> <td data-bbox="311 817 1396 985"> <p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーン、フォークを下から持って食事をする。 ・苦手なものでも、少しは食べてみようとする。 ・排泄したくなると、仕草や言葉で知らせトイレで排泄しようとする。 ・自分から布団に入り、一定時間睡眠、休息をとる。 ・保育者と一緒に手を洗い、きれいになることを感じる。 ・ズボンや靴下など、簡単な衣服を脱いだり、時にははいてみようとする。 ・走ったり、跳んだり、しゃがんだり全身を使って遊ぶ。 ・「自分で」という気持ちと、うまくいかない気持ちから、自分でできたことを喜ぶ。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 985 311 1075">人間関係</td> <td data-bbox="311 985 1396 1075"> <p>自信と信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、安心して好きな遊びを楽しんだり、かわってもらふことを喜ぶ。 ・友達や保育者のしていることに関心をもち、真似したり一緒にやってみようとする。 ・友達との物の取り合いや、ぶつかり合いをしながら、次第に気になる友達と一緒にいることの楽しさを感じる。 ・保育者とやり取りしながら、良い悪いがあることに、気付いていく。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 1075 311 1164">環境</td> <td data-bbox="311 1075 1396 1164"> <p>命と自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花などを見たり触れたりする。 ・水、土、小石、砂などの自然物に触れて感触を楽しむ。 ・紙、粘土などの素材に触れて遊ぶ。 ・誕生会や季節の行事に参加して楽しんだり、雰囲気を楽しむ。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="248 1164 311 1411">豊かな情緒</td> <td data-bbox="311 1164 1396 1411"> <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいこととしてほしいことを、仕草や片言で伝えようとする。 ・単語の数が増え、2語文が出るようになる。 ・大人の語りかけや指示をほとんど理解して動こうとする。 ・興味のある絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しを楽しんだり、模倣したりして遊ぶ。 ・友達や保育者の名前を覚えて言おうとしたり、生活の中で使う言葉が言えるようになる。 ・身近なおもちゃを使って、保育者を見立てて再現遊びを楽しむ。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紐通し、洗濯ばさみ、型はめなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・大きい紙に、ぐるぐる丸くなぐり描きをする。 ・歌を歌ったり、保育者とリズムに合わせて、体を動かして遊ぶ。 ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを楽しむ。(フィンガーペイント、小麦粉・片栗粉・米粉粘土、スライム、砂、土など) </td> </tr> </table>	健康な心と体	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーン、フォークを下から持って食事をする。 ・苦手なものでも、少しは食べてみようとする。 ・排泄したくなると、仕草や言葉で知らせトイレで排泄しようとする。 ・自分から布団に入り、一定時間睡眠、休息をとる。 ・保育者と一緒に手を洗い、きれいになることを感じる。 ・ズボンや靴下など、簡単な衣服を脱いだり、時にははいてみようとする。 ・走ったり、跳んだり、しゃがんだり全身を使って遊ぶ。 ・「自分で」という気持ちと、うまくいかない気持ちから、自分でできたことを喜ぶ。 	人間関係	<p>自信と信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、安心して好きな遊びを楽しんだり、かわってもらふことを喜ぶ。 ・友達や保育者のしていることに関心をもち、真似したり一緒にやってみようとする。 ・友達との物の取り合いや、ぶつかり合いをしながら、次第に気になる友達と一緒にいることの楽しさを感じる。 ・保育者とやり取りしながら、良い悪いがあることに、気付いていく。 	環境	<p>命と自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花などを見たり触れたりする。 ・水、土、小石、砂などの自然物に触れて感触を楽しむ。 ・紙、粘土などの素材に触れて遊ぶ。 ・誕生会や季節の行事に参加して楽しんだり、雰囲気を楽しむ。 	豊かな情緒	<p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいこととしてほしいことを、仕草や片言で伝えようとする。 ・単語の数が増え、2語文が出るようになる。 ・大人の語りかけや指示をほとんど理解して動こうとする。 ・興味のある絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しを楽しんだり、模倣したりして遊ぶ。 ・友達や保育者の名前を覚えて言おうとしたり、生活の中で使う言葉が言えるようになる。 ・身近なおもちゃを使って、保育者を見立てて再現遊びを楽しむ。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紐通し、洗濯ばさみ、型はめなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・大きい紙に、ぐるぐる丸くなぐり描きをする。 ・歌を歌ったり、保育者とリズムに合わせて、体を動かして遊ぶ。 ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを楽しむ。(フィンガーペイント、小麦粉・片栗粉・米粉粘土、スライム、砂、土など)
健康な心と体	<p>健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スプーン、フォークを下から持って食事をする。 ・苦手なものでも、少しは食べてみようとする。 ・排泄したくなると、仕草や言葉で知らせトイレで排泄しようとする。 ・自分から布団に入り、一定時間睡眠、休息をとる。 ・保育者と一緒に手を洗い、きれいになることを感じる。 ・ズボンや靴下など、簡単な衣服を脱いだり、時にははいてみようとする。 ・走ったり、跳んだり、しゃがんだり全身を使って遊ぶ。 ・「自分で」という気持ちと、うまくいかない気持ちから、自分でできたことを喜ぶ。 								
人間関係	<p>自信と信頼</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者に見守られながら、安心して好きな遊びを楽しんだり、かわってもらふことを喜ぶ。 ・友達や保育者のしていることに関心をもち、真似したり一緒にやってみようとする。 ・友達との物の取り合いや、ぶつかり合いをしながら、次第に気になる友達と一緒にいることの楽しさを感じる。 ・保育者とやり取りしながら、良い悪いがあることに、気付いていく。 								
環境	<p>命と自然</p> <ul style="list-style-type: none"> ・散歩や戸外遊びを通して、虫や草花などを見たり触れたりする。 ・水、土、小石、砂などの自然物に触れて感触を楽しむ。 ・紙、粘土などの素材に触れて遊ぶ。 ・誕生会や季節の行事に参加して楽しんだり、雰囲気を楽しむ。 								
豊かな情緒	<p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のしたいこととしてほしいことを、仕草や片言で伝えようとする。 ・単語の数が増え、2語文が出るようになる。 ・大人の語りかけや指示をほとんど理解して動こうとする。 ・興味のある絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉の繰り返しを楽しんだり、模倣したりして遊ぶ。 ・友達や保育者の名前を覚えて言おうとしたり、生活の中で使う言葉が言えるようになる。 ・身近なおもちゃを使って、保育者を見立てて再現遊びを楽しむ。 <p>表現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紐通し、洗濯ばさみ、型はめなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・大きい紙に、ぐるぐる丸くなぐり描きをする。 ・歌を歌ったり、保育者とリズムに合わせて、体を動かして遊ぶ。 ・いろいろな素材を使って、感覚遊びを楽しむ。(フィンガーペイント、小麦粉・片栗粉・米粉粘土、スライム、砂、土など) 								
<p>環境構成・援助</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で食べようとする気持ちを大切にしながら、スプーン、フォークの正しい持ち方を知らせ援助する。 ・排泄のタイミングを見て誘いながら、無理強いせずオマルやトイレに慣れさせていけるようにする。 ・尿意を知らせたり、トイレで排泄できたときには、共に喜び褒めることなどを繰り返し、意欲がもてるようにする。 ・一人一人の子どもの生活リズムを大切にしながら、安心して午睡や休息が出来るようにする。 ・衣服の着脱がうまく出来るときは、しっかり褒めたり、さりげなく手を添えるなど、自分でできた喜びが感じられるようにする。 ・食事の前やトイレに行った後、手を洗うように促したり、見守ったりして習慣がつくように繰り返し援助する。 ・子どもの自発的な遊びを大切に、室内を広くしたり、目的を持って移動できる空間や時間などに配慮する。 ・くぐったり、登ったり、すべったり、転がしたり、全身を使う遊具や、はさんだり、入れたり、動かしたりする玩具や素材を用意する。 ・自己主張が多くなり、いらいらする姿や依存的な姿も出来る限り受容していく。 ・自己主張のできない子やうまくいかない子にも、生活や遊びの場面を通して、気持ちがだせれるようにしていく。 ・ぶつかり合いや噛みつき合い、ひっかきなど起こるので、子どもの行動や遊びを見守り、お互いの気持ちを受け止めていく。 ・ゆっくりと個々にかかわり、気持ちが落ち着くことができるように、声をかけふれあいをもつ。 ・見立て遊びに必要な身近な生活用具や玩具を用意して、保育者とのやり取りの中で、再現遊びが楽しめるようにする。 ・安全な環境の中で散歩に少人数で出かけて、自然物を見たり、触れたりする機会を多くもてるようにする。 ・安全に配慮しながら遊びの中で可塑性のある素材や物を用意し、身近な物に興味を持って、感触を楽しめるようにする。 ・一語文から二語文への移行期や語尾を真似た片言期なので、子どもの言葉に含まれていない気持ちを汲み取り言葉に置き換えていく。 ・保育者は生活や遊びの中で子どもの好きな手遊びや歌を繰り返し歌い、リズムや言葉、身振りを楽しむことができるようにする。 								
<p>家庭との連携</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分でやりたい」ことが、成長の過程であることを伝え、気持ちを受け止め、時には待つ事の大切さを知ってもらふ。 ・友達への関心が芽生えることにより、トラブルが起こりやすいため、トラブルが起きたときには原因や状況を伝えて理解してもらふ。 								